

第Ⅱ部 調査の結果

ここで示す内容は、調査対象者が調査票の各設問に回答した結果を、表または図にして示すことを主とし、分析はごく一部にとどめる。ここで検討した分析軸（第Ⅳ部資料の表の場合に「表側」とした項目）は、性別、都市規模別、警察管区別の3種で、さらに年齢別検討を一部加えた。これらの資料から注目される結果を以下に示した。なおこれら以外の分析は第Ⅲ部に示される。

第1章 犯罪被害の実態

設問「あなた、あるいは同居の家族の誰かが、この1年間（平成15年10月1日から平成16年9月30日まで）に以下に示す16の犯罪の被害にあったことがありますか」と尋ねた。

16（15番目までは特定罪種、16番目は「その他」）の犯罪それぞれに対する回答分布は、ここでは省略する。またここで得られた回答は、警察に届け出て警察が把握した件数（犯罪統計に計上される数）ではなく、回答者の申告であり、犯罪発生の暗数に当たる件数等を含んでいる。この検討は第Ⅲ部第1章を参照されたい。

比較的多い被害をみると、「自転車が盗まれた」（236人、13.2%）、「自宅や自動車などに落書きされたり、壊されたりした」（81人、4.5%）、「自宅や敷地内に無断で侵入された」（70人、3.9%）、「自宅にどろぼう（空き巣など）に入られた」（62人、3.5%）などがある。

全体として、被害1件だけが369人、2件が108人、3件以上が63人、合計540人（30.3%）が、何らかの犯罪被害をこの1年間に受けており、被害なしは69.7%である。

この被害件数で見ると、男女間での違いはごく小さく（何らかの被害があった率は、男性31.4%、女性29.3%）、年齢別では50代以上で被害体験がやや少なくなる。

都市規模別では、大都市圏（33.4%）でやや高く、次いで10万以上都市（30.3%）となり、10万未満都市（28.4%）と町村（28.6%）でやや低い。

警察管区別では高い順に、中部（35.5%）、近畿（32.9%）、中国（32.6%）、九州（30.7%）、関東（28.8%）、東北（28.7%）、東京（28.2%）、四国（26.4%）、北海道（23.8%）の順になった。